

伊参スタジオ映画祭専用応募用紙（A4 サイズ 30 字×30 行）

チ
ヨ
コ
レ
ー
ト
は
、
痛
い

伊参スタジオ映画祭専用応募用紙 (A4 サイズ 20 字×20 行)

あらすじ(400字以内)

会社員の倉持由衣(㊄)は婦人科検診をきっ
かけに「チョコレート嚢胞」と診断される。
卵巣の腫れは手術が必要な大きさで、放置す
れば破裂やガン化の可能性もあり、将来妊娠
が難しくなるかもしれないという。折しも会
社からはマネージャー昇格の打診が届き、由
衣は仕事と将来の選択肢の間で揺れ始める。
夫の不倫を知りながらも妊娠を機に家庭を守
る決意をした友人・早織。パートナートとの将
来に迷う友人・歩。それぞれの生き方に触れ
るうち、由衣は今まで深く考えずに済んでい
た「選べたはずの未来」に、初めて焦りを覚
える。一人で抱え込んでいた由衣は、母・橙
子に病気と心の不安を打ち明け、初めて自分
の本音と向き合う。手術を終え、傷跡をそつ
と数える由衣。答えを出すことはまだできな
いけれど、由衣は一步、ゆつくりと、軽やか
に歩き出す。ポケットの中で溶けたチョコレ
ートは、痛みと甘さを併せ持つ由衣自身の姿
と重なっていく。

登場人物表

倉持	由衣	(33)	主人公
野元	早織	(33)	由衣の友人
永嶋	歩	(33)	由衣の友人
倉持	橙子	(60)	由衣の母
医師	1		
	2		
妊婦			
の			
女性			

○病院・産婦人科・診察室内

カーテンで仕切られた内診台で、診察を受けている倉持由衣
(33)。

天井のライトを見つめながら、眉間に皺を寄せている。

医師1の声「倉持さん。一度、大きい病院で診てもらった方が良い

かもしれません」

由衣、思わず体を起こす。

由衣「……え？」

医師1の声「力、入れないでくださいね」

由衣「……すいません」

由衣、横になり天井を呆然と見つめる。

由衣M「大きい病院？ここは小さいのか？ここで診れない病気が
こと？」

○倉持家・外観(夜)

『倉持』と表札のある郊外の一軒家。

○同・居間(夜)

壁一面に由衣の写真が飾られている。

七五三、成人式、卒業式など。

食卓でワインを飲む倉持橙子(60)。

由衣、入って来て、

由衣「あれ？今日遅いんじゃないか？」

橙子「会食が思いの外早く終わったの。ワイン、飲むでしょ？」

由衣「ううん。今日はやめとく」

橙子「珍しいね」

由衣「気分乗らないだけ」

橙子「えー、一人じゃ飲み切れないんだけど」

由衣「ごめん。また今度で」

食卓に置いてある封筒を手取る由衣。

橙子「子宮頸がんの検診クーポンだった」

由衣「健康診断のオプションで受けたよ。……で、再検査になっちゃった」

橙子「え……大丈夫なの？」

由衣「分かんない。明日精密検査受けてくる」

橙子「検査って、一人で大丈夫？一緒に行くか？」

由衣「心配しすぎ。付き添ってる人なんかないよ」

橙子「女の子は冷えが良くないんだから。早くお風呂入りなさい」

由衣「女の子って、私もう30過ぎなんだけど？」

橙子「お母さんからしたら、いつまでも子供よ」

フツと笑う由衣。

○倉持家・由衣の部屋（翌朝）

デニムを履いている由衣。

お腹が引つかかって、ファスナーが閉まらない。

鏡を見ながら、お腹の肉をつまむ。

由衣「飲み過ぎ？」

デニムを脱いでワンピースに着替え直す。

○大学病院・産婦人科・待合室

お腹の大きな女性や、小さな赤ん坊を連れた女性などで混雑している。

端の方に立っている由衣。

○同・診察室

由衣と医師、向かい合い座っている。

医師2「エコーでの検査も行いましたが、左側の卵巣に腫れがあります。おそらくチョコレート嚢胞ですね」

由衣「チョコレート？」

医師2「子宮内膜症の一種です。子宮内膜が卵巣に発生し、少しず

つ血液が溜まってしまっんです」

医師、エコー写真を指して、

医師 2 「右側の卵巣は正常ですが、左側は約 10 センチほどに腫れています。この大きさだと手術をおすすめします」

由衣 「え？手術……ですか？」

医師 2 「見たところ良性ではないかと思いますが、放置すると破裂したり、年齢によってガン化する確率が高くなります」

由衣 「……ガン？えっと、待ってください……」

呆然とする由衣。

淡々と説明する医師の横顔をぼんやりと見つめる。

医師 2 「さらに詳しく検査する必要がありますので、改めて来院してもらえますか？」

由衣 「……はい」

医師 2 「お薬も処方しておきますので、今日から飲み始めてください」

由衣 「……分かりました」

医師 2 「何か質問はありますか？」

由衣 「えーっと、私は病気ってことですか？」

医師 2 「そういうことになりますね」

由衣 「原因は何ですか？運動不足とか、食生活の乱れとか。あ！お酒の飲み過ぎですかね？」

医師 2 「はつきりとした原因は分かっていないんです。女性は月経がある限り、こういった病気のリスクがあります」

由衣 「そうですか……」

由衣、エコー写真をぼーっと眺める。

由衣 M 「病気というのは、病名を宣告された瞬間から始まるようだ」唇を噛みしめる由衣。

○同・待合室

椅子に腰掛け、下腹部をさすっている由衣。

由衣 M「さっきまでは元気だったのに、今は体も気持ちもだるい」

隣にいるお腹の大きな妊婦、由衣に向かって、

妊婦「何ヶ月ですか？楽しみですね」

由衣「……妊娠じゃなくて検査で」

妊婦「あ、すいません……」

由衣「私の格好が紛らわしくて、すいません」

妊婦「本当に失礼なことを……」

由衣「いえ、大丈夫ですよ……赤ちゃん楽しみですね」

ぎこちなく笑い合う二人。

○道

とぼとぼ歩いている由衣。

スマホにグループメッセージ。

【早織…久しぶりにご飯行こうよ！】

【歩…いいこいこ！いい感じの店見つけたよ！】

由衣、「了解」と返信する。

○倉持家・由衣の部屋（夜）

「チョコレート嚢胞」と検索している由衣。

【菓飲んでるけど全然大きさ変わってない】【手術後、無事に自然妊娠しました！】【破裂して救急車で運ばれた】【明日手術です。全身麻酔怖い】など、たくさんの投稿がある。

由衣「チョコの人、こんなにいるんだ……」

机に積まれた大量のチョコに目をやる。

由衣「ていうか、なんでそんな名前なの？」

チョコを雑につかみ、全てゴミ箱に投げ入れる。

由衣「むかつく！もっと変な名前にしとけ！」

ベッドに倒れ込む由衣。

○イタリアンレストラン・店内

テーブルに並んだパスタやサラダを食べている野元早織(33)
と永嶋歩(33)。

由衣、テーブルに駆け込んで来る。

由衣「ごめん！アラム知らないうちに止めてた！」

早織「最近、忙しいの？」

由衣「うん、色々あって」

と、ポーチから処方された薬を取り出し飲む。

歩「何の薬？」

由衣「……生理痛」

早織「生理痛ひどい人ってさ、病院行った方が良いんだよ」

由衣「さすが、詳しいね」

早織「そういえばさ、ブライダルチェックって知ってる？」

歩「何それ？」

早織「婦人科検診みたいな感じ。私、子供欲しいから受けようかって旦那と話してて」

歩「出産って鼻からスिका出るくらい痛いんでしょ？怖そう」

早織「自分の子供ほしいと思わないの？」

歩「(同時に)思うけど」

由衣「(同時に)思わない」

由衣と歩、顔を見合わせる。

由衣「欲しいんだ？」

歩「欲しくないの？」

早織「結婚はともかく、出産は早ければ早い方が良いんだよ」

由衣「35歳から高齢出産だっけ？」

歩「高齢って響き、シビれるね」

由衣「でもさ、相手がいても必ず結婚出来るわけじゃないし、妊娠だって望んでも100パーじゃないわけだし」

早織「由衣は一生独り身のつもりなの？」

由衣「お互い仕事して、プライベートに干渉しなくて、財布も家事も折半で良いって人がいたら結婚したいかも」

歩「そんな都合のいい人いないって。妥協しないと」

早織「そうだよ。じやないと寂しい老後だよ？」

由衣「結婚しても死ぬ時は独りだよ」

歩「わあ、老人みたいなこと言わないで」

由衣「独身はお金も時間も自由に使える。友達もいる。結婚のメリットって何？」

早織「うーん、メリットってなんだろうね？」

歩「なんか訳ありげな言い方じゃない？」

早織「実は聞いて欲しいことがあるんだよね」

由衣と歩、顔を見合わせる。

× × ×

デザートを食べている三人。

由衣は何か考え込んでいる表情。

歩「不倫ねえ……」

早織「毎日帰りも遅いし、休日出勤も増えてて」

歩「かなりグレーかも」

由衣「決定的でもないんでしょう？」

早織「探偵雇おうかと思って」

歩「探偵って。ドラマの見過ぎ」

早織「夫婦って、血のつながりがないからこそ、強い絆が必要なんだよね」

由衣「絆のために不倫調査？」

早織「お互いのこと、知る権利があるって思うの。干渉しないってわけにはいかない」

由衣「それで関係崩れたら？」

早織「崩れない」

歩「その自信はどっから来るんだか」

早織「私、孫の顔見せることが一番の親孝行だなんて思ってるの。」

だから絶対にこの結婚生活を守るって誓ったから」

歩、一瞬だけ表情を曇らせる。

が、すぐに笑顔を作り、

歩「それ、独身二人の前で言っちゃう？」

「ねー？」とわざとらしく笑う歩。

苦笑いの由衣。

○同・店の前

三人、店の外へ出て来る。

歩、由衣と早織にイタリア国旗柄のチョコを手渡す。

歩「これ、お店の人がどうぞって」

早織「チョコじゃん。由衣、良かったね」

由衣「……うん」

チョコを上着のポケットに入れる由衣。

痛みを感じお腹を押さえ、

由衣「あーあ、食べすぎたかも！」

歩「私もー夕飯抜こうかなあ」

早織「一人だと自由で良いなあ」

由衣「独身、さいこー！」

早織「由衣も35超えたら、悠長なこと言ってられなくなるよ」

由衣「だから、私は結婚しないんだって」

早織「そんなの分かんないじゃん！」

歩「はいはい、喧嘩はやめなさい」

笑い合う三人。

○大学病院・産婦人科・診察室（日替わり）

モニターにはエコー写真。

白っぽいボールのような影が映っている。

由衣「これがお腹に入ってるんですか？」

医師2「だいたい新生児の頭くらいですね」

由衣「赤ちゃんの頭……」

医師2「この大きさと腹腔鏡手術を行うことが出来ます」

由衣「フククウキョウ……？」

医師、紙にお腹のイラストを描く。
お臍と下腹部に線を引いて、

医師2「お臍と、お腹を3箇所、計4箇所に小さな穴を開けて手術をします。跡は残りますが、従来の開腹手術に比べて回復も早いです」

由衣「どれくらい入院するんですか？」

医師2「1週間前後ですね」

由衣「そんなに仕事休めない……」

医師2「手術をせずに薬で治療をするという手もありますが、悪性かどうか判断が出来ないので、この大きさの場合は手術をおすすめしています」

由衣、イラストをじっと見つめる。

医師2「手術では腫瘍を摘出しますが、癒着がひどい場合には、卵巣自体を摘出する可能性もあります」

由衣「摘出して……妊娠出来なくなるってことですか？」

医師2「片方残っていれば自然妊娠は可能です。但し、この病気は再発率が高いので、将来的に2度目の手術をする場合は、妊娠は難しい可能性があるとお考えください」

由衣「手術したとしても、終わりじゃないんですね」

医師2「子宮内膜症は閉経するまで向き合っていく必要があります。倉持さんの年齢ですと、20年くらいですかね」

啞然とした表情の由衣。

由衣「なんでこんな病気に私になっちゃったんでしょうね……」

医師2「子宮内膜症は女性であれば、誰にでもリスクがあります。治療をしながら妊娠される方もいますよ」

由衣「妊娠……」

医師2「手術説明の際には、ご家族の同席が必要です。よくご検討ください」

由衣、じっとエコー写真を見つめる。

○道 (夕)

とぼとぼ歩いている由衣。

幼稚園児くらいの子供が、由衣のそばを走って行く。

スマホに通知。

早織から【今から会えない?】。

○カフェ・店内 (夕)

由衣「で、話って?」

早織「こないだのことなんだけど」

由衣「……不倫疑惑?」

早織「もう疑うのやめることにしたの」

由衣「……何かあった?」

早織「正直なところ、不倫はしてると思う」

由衣「!」

早織「でもね、今の生活を捨てられないなって思っちゃって」

由衣「お金の問題?」

早織「まあ、それもあるけど、もしも離婚したらこの子がかわいそうかなって」

早織、お腹を大事そうに撫でる。

由衣「え?いつの間に?」

早織「まだ秘密ね。高齢出産になる前で良かったよ」

由衣「じゃあ、子供のために我慢するんだ」

早織「我慢っていうか、母性本能かな。妊娠してるって分かったら、急にママなんだって自覚芽生えちゃった」

由衣「今、幸せ?」

早織「うん。不安も確かにあるけど、それ以上にこの子を守ろうって気持ちかな」

由衣「早織が納得してるなら良いよ」

早織「この感覚、いつか由衣も子供出来たら分かるよ」

由衣「そんな簡単に言わないで」

早織「え？」

由衣「誰でも産めるみたいというじゃん」

早織「そんなつもりじゃ……」

由衣「……ちよつと今はその感じしんどい」

と、席を立つ由衣。

その場で固まったままの早織。

○倉持家・由衣の部屋（夜）

床に置かれたアルバム。

幼い頃の由衣の写真。

ぼんやりと眺めている由衣。

スマホにメッセージ。

件名には、「マネージャー昇格打診の件」とある。

○同・居間

由衣「お母さん」

橙子「どうしたの、急に」

由衣、小さく深呼吸して、

由衣「私、病気なんだって」

橙子「え？」

由衣、鞆から病名や手術の流れ、入院の手引きなどが書かれた資料を取り出し、並べる。

由衣「婦人科の再検査受けて、病気が見つかったの。卵巣に血が溜まって、かなりの大きさで、ほつとくと破裂したり、ガンになるかもしれないって」

橙子「ちよつと待って。ガンってどういうこと？今は大丈夫なの？」

由衣「薬飲んでる。副作用で体調は最悪だし、不正出血もあるし、

卵巣全摘出になったらどうしようって不安だし……」

橙子「なんでもっと早く言わなかったの？」

由衣「だって心配するじゃん」

橙子「親なんだから当たり前でしょ」

由衣「孫の顔見せられないってがっかりさせちゃうし」

橙子「孫？何で急にそんなこと……」

由衣「孫見せるのが一番の親孝行らしいから」

橙子「私、そんなこと言った？」

小さく首を振る由衣。

橙子「あのね、由衣が元気に過ごしてたら、それだけで十分なの」

由衣「今は元気じゃないけど」

橙子「治療して元気になったら良いの」

由衣「ごめんね……」

橙子「謝らないで」

由衣「会社から、マネージャーにならないかって打診されてるんだ」

橙子「すごいじゃない。由衣なら出来るよ」

由衣「これ受けたら、もう子供のこと考えられないと思う」

橙子「……」

由衣「病気になって、子供が産めなくなるかもしれないって思った
ら、急に焦ってきた。もっと考えとけば良かった。相手だっ
ていないのに」

橙子、由衣の手をそつと握る。

由衣「……こういうの未練っていうのかな。バカみたいだけど」

橙子「バカなんかじゃないから」

由衣「もっと早く気付きたかった。選択肢があるって恵まれたこと
だったみたい」

橙子「何かを失うって時に、自分が何を大切にしたいか、気がつく
ものなの」

由衣「自覚した時には手遅れだね」

橙子「失敗したり、後悔を繰り返して、ちよつとずつ学んでいくの
よ」

由衣「……お父さんを失った時、お母さんも何かを学んだ？」

橙子「何があっても、自分の気持ちを尊重するべきなんだってことかな」

由衣「お父さんがいなくても一人で生きていきたいって気持ち？」

橙子「由衣を一番に大事に考えること」

由衣「……母性ってやつ？」

橙子「かもね。何よりも一番に、由衣を守らなきゃって気持ちが湧いてきた」

由衣「私は自分勝手に親不孝で、ごめん」

橙子「病気は、由衣のせいじゃない」

由衣「原因は分からないって言われたけど。なんで私だけって」

橙子「……手術もきつとうまくいくよ」

由衣「うん……」

橙子「これだけは忘れないで」

由衣「……」

橙子「健康でも病気でも、子供がいてもいなくても、由衣は由衣だからね」

橙子、由衣を抱きしめる。

○病院前（日替わり）

ふらふらと歩いている由衣。

手には、病院の名前が印字された封筒。

妊婦や子連れの家族が由衣の目の前を通りすがっていく。

由衣、下腹部にズキンと痛みが走り、顔をしかめる。

由衣「……！」

あわててスマホを取り出すが、手が震えて地面に落ちる。

「歩に電話発信中」となっている。

由衣「ヤバ……」

歩の声「もしもし？由衣？どした？」

由衣「あ……歩、ごめん。間違え……」

その場でうずくまる由衣。

歩の声「声変だよ？大丈夫？今どこ？」

由衣「病院の前……お腹痛くて……でも、ごめん。大丈夫だから」

と、電話を切るとよろよろ歩き出す。

が、激痛ですぐにその場にうずくまってしまう。

通り過ぎる人の冷ややかな視線。

由衣「なんで私なの？」

と、足音が近づいてきて、誰かが後ろから由衣を抱きしめる。
息を切らした歩である。

由衣「！」

歩「良かった……」

由衣、歩の顔を見て、泣き崩れる。

○病院近くのカフェ・店内（夕）

テーブルの上に、湯気の立つお茶がある。

チョコレートケーキを食べる歩。

由衣、温かいカップを手にしている。

歩「少し落ち着いた？」

由衣「うん。あったかいの飲んだらちよっと楽になった」

歩「（自分のケーキを指して）これ、食べる？」

由衣「こんな時にケーキなんて無理」

歩「フォンダンショコラ。あったかいチョコだよ」

由衣「いらない」

歩「チョコ、嫌いになったの？」

由衣「え？ああ、うん。なんかムカついてるだけ」

歩「食べ物に罪はないでしょ」

と、フォークで小さくケーキを崩す。

中から濃厚なチョコレートがとろりと溢れてくる。

由衣、そのチョコをじっと見つめる。

由衣「……可愛い名前のくせに、勝手に居座って、私のこと傷つけてくるから」

言いながら、意を決したように、口に運ぶ。

由衣「ムカつく！……あったかくて甘くて……悔しい」

泣き笑いの表情の由衣。

歩「やっと笑った」

由衣「……歩はさ、彼女との子供欲しいって思ったことある？」

歩「急に飛躍するのね」

由衣「質問に答えて」

歩「……ある」

由衣「……私の子供育ててくれないかな？」

歩「は？子供出来たの？いつ？誰の子？」

由衣「まだいないよ」

歩「……分かるように説明して」

由衣「私、病気になっちゃったんだ。手術もしなきゃいけなくて、

再発する確率も高いんだって」

歩「そんな……一言も話してくれなかったじゃん」

由衣「あらゆるタイミング逃してた」

歩「ごめんね。全然気付いてあげなくて」

由衣「先生が言ってたんだけど、妊娠したら症状が緩和する場合もあるんだって。歩は子供欲しいって言ってたし、代理出産だっけ？どうかなって……」

歩「自分が何言ってるか分かってる？」

由衣「ヤバイよね。ごめん、忘れて」

由衣、ケーキを勢いよく口に放り込む。

歩「由衣はさ。自分の子供が欲しいんじゃないの」

由衣「……勝手だよ。結婚なんてしないって言ったのに」

歩「別に良いじゃん、本能に従ったら」

由衣「相手もいないのに？」

歩「由衣にはまだ選択肢があるんだよ。病気だったとしても、未来がある。だから羨ましくてムカつく」

由衣「……」

歩「私は本能に従ったら、選択肢がすつごく少ないの。分かる？」

由衣「……ごめん」

歩「由衣が謝ることじゃないよ。ただ、海外行ったら良いかなとか、毎日考えてる。でも、結局何がベストか、私たちがどうするべきなのか答えは見つかってない」

由衣「パツと見つければ、みんな悩まなくて済むのにね」

歩「そう簡単に見つからないのが人生なのよ」

由衣「悟ってるね」

歩「だから、由衣は見つけられて良かったってこと」

由衣「病気になっちゃったけどね」

歩「人は追い詰められないと、分かんないんだと思うよ」

由衣「もつと甘い人生が良いよ」

歩「病気、治るんでしょ？」

由衣「でも再発するかもって」

歩「由衣がいなくなったら困るから、明るくして」

由衣「ムカついてるくせに？」

歩、由衣の足を軽く蹴る。

歩「ねえ、どんな手術なの？」

由衣「お腹切るんだって。傷跡も残るから、ビキニ着れなくなる」

歩「ついでに脂肪も取ってもらったら？」

由衣「うるさいなあ」

歩「……手術終わったらちゃんと連絡してね。面会は？行けるのかな？」

由衣「お母さんみたいなこと言うじゃん」

歩「由衣は独り身だから、私が心配してあげないと」

由衣「その感じ、お局みたいだから、気をつけた方が良いよ」

歩「由衣も、お節介お婆さんにならないように気をつけて」

笑い合う二人。

歩「悪口言う相手がいなくなると寂しいから」

由衣「……私もだよ」

お皿にわずかに残ったチョコレートのソースをすくって食べる二人。

○大学病院・産婦人科・待合室

手術同意書を手には座っている由衣。

署名欄には、由衣と橙子のサインが並んでいる。

スマホに歩からメッセージ。

【その病院、年間100例もチョコの手術してるって！安心して受けなさい】。

由衣「チョコって略すな……」

思わず吹き出す由衣。

○病院・手術室内

ベッドに横たわり酸素マスクをつけている由衣。

麻酔が効いて、ゆっくり目を閉じる。

目の前が真っ白になる。

○同・病室

目を覚ます由衣。

点滴や心電図モニターにつながれている。

由衣、自分のお腹にそっと手を触れる。

包帯の上、傷の感触を確かめるように指を這わせる。

由衣「……ある？」

○大学病院・診察室（数日後）

エコー写真を見つめる由衣。

医師2「癒着ありませんでしたので、左の卵巣もすべて取らなくて済みました」

由衣「！」

医師2「病理の結果も、良性でしたので、これで一安心ですね」

由衣、小さく頷く。

○大学病院・玄関前（日替わり）

外へ出て来る由衣と橙子。

由衣、一歩ずつ感触を確かめるように、ゆつくりと歩いて行く。

○山間の道

橙子の運転する車が、青々とした緑豊かな道を走り抜けていく。

助手席の窓を全開にしている由衣。

吹き込んでくる風が、由衣の髪を揺らしている。

目を閉じ、大きく息を吸い込む由衣。

橙子「ちよつと遠回りだけど、この道気持ちいいよね」

由衣「……うん。すうつとする感じ」

緊張がほぐれた表情の由衣、小さく笑顔を浮かべる。

○倉持家・由衣の部屋

鏡の前に立つ由衣。

恐る恐る洋服を捲る。

お腹に小さな傷跡。

由衣「1、2、3、4……よく頑張ったね」

と、お腹をそつとさする。

スマホを取り出す由衣。

「マネージャー昇格打診の件」のメールを開き、何か打ちかけるが、少し考えて画面を閉じる。

由衣「まだ、いつか」

○駅前広場

一人ぶらぶらと歩いている由衣。

路上にある、小さなステージで歌い踊るアイドル風の女性たち。お腹を大きく露出した服を着ている。

由衣、足を止める。

無意識に視線が、女性たちのきれいなお腹に向かう。

そつと、自分のお腹に触れる由衣。

早織からメッセージ。

【手術のこと歩から聞いた。ごめん。ずっと由衣には、自分のことばっかで何にも聞いてあげてなかった】

返信を打つ由衣。

【私もごめん。また三人でご飯行こう】

上着のポケットに手を入れると、何か入っていることに気づく。取り出すと、潰れてぺちゃんこになったイタリア国旗柄のチョコ。

包装紙の端から、溶けた黒い液体が滲んでいる。

由衣、銀紙についたチョコを指先ですくい、口に運ぶ。

目を閉じ、口に広がる、甘さとほろ苦さを感じる由衣。

指についた汚れを気にすることなく、傷跡のあたりをさすりながら歩き出す。

足取りはゆつくりと、だが軽やかだ。

○タイトル『チョコレートは、痛い』

(了)